

▼ジョン・ウエスレーに学ぶ会々長に聞く

ジョン・ウエスレーに学ぶ会の

回顧と展望

日本イエス・キリスト教団
放出教会 牧師 小山 恒雄



「聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために」—ユダ3節

幸雄師、朝比奈寛師、畑野基師等の御尽力、御指導を頂きました。

に一回発行配布されます。

I 回顧

一九八〇年一〇月、大阪森ノ宮の日生球場でペリー・グラハム国際大会が開かれ、全国規模で六ヶ所のクルセードがもたれた時、伝道という目的のため教団教派を超えて、かつてなかったような協力態勢が実現しました。その次の年、聖書的聖化を信じる教職信徒たちが、今日キリスト教多様化の時代の中にあつて、受け継いだ聖書の聖化の体験をお互いに確認し、宣証することを目的として、大阪で「ジョン・ウエスレーに学ぶ会」が発足しました。一九八一年秋のことと同信の交わりと個人参加で、この会の誕生に際しては故長島

II 現状

幸い、その後日本聖化交友会が発足され、全国規模でその働きが拡大されつつあり、「ジョン・ウエスレーに学ぶ会」もその傘下の一員としての交わりと相互協力の中に置いて頂いていることを感謝しております。先日は第一七回総会を数え、礼拝の後の公開講座と夜の聖会にはインマヌエル総合伝道団名古屋教会牧師の竿代信和先生をお迎えし、幸いな集會を持つことができました。秋は十月に聖化交友会との連係で一日大会が持たれます。すべてのメッセージ、講演を収録した会誌「宣証」と、四頁ものの機関誌「会報・宣証」が年

III 展望

今日も、ジョン・ウエスレーが口にしたオールモスト・クリスチャン（名目上の八分目のクリスチャン）が少なくなく、その反面、聖霊の働きを宣教論の面からのみ捕えるペンテステ派の台頭を見る時に、今こそ、聖霊による人格的なきよめに焦点をあてた聖書の全き聖化が宣証され、それが日本宣教の突破口となります。ようにと祈るものです。

宣教方策花ざかりのような今日の時代に、身をもって福音の何たるかを世に証しするキリストの証人が、育てられる場となりますように、日本聖化交友会の働きと交わりの上に、主の祝福を祈りながら。

一ッ橋ホー
りました。

教 勢

月日	集 会 名	集会人数(名)
10月21日(月)	セミナーI	257
	レセプション	37
	講 演	304
	聖会I	345
10月22日(火)	女性大会	387
	教師交歓会	41
	セミナーII	290
	神学生交歓会	128
	聖会II	347

特記事項 女性大会には男性も含む。

財 勢

集 会 名	席上献金	予約献金	合 計
聖会 I	301,949	1,141,000	1,442,949
聖会 II	318,008	98,000	416,008
セミナー II	193,616	165,000	358,616
女性大会	329,240	640,500	969,740
そ の 他	2,735	48,060	50,795
合 計	1,145,548	2,092,560	3,238,108

『世俗化の時代に輝くホーリネス(聖会I)』

キングホーン博士

現代の文化は、世俗が芯まで浸透している。サタンは、様々な事に於て私たちを世俗の型にはめ込ませようとしている。現代の社会を形成する背後にある世俗という根拠もなく信じている仮説について申し上げる。そしてこの世俗の仮説に対して、私たちがクリスチャンはそれに代わるどのような生き方があるか考えてみよう。

I 現代人の思考を形成する

六つの仮説

一、人間の分析

18世紀のフランス革命以来、人間の分析化が進んだ。その主義、主張は次の通り。
誰も人間を支配する者はいない。人間がすべて。自分の方向方針は自分で決める。神の存在は否定しないが、その神はわれらと何の関わりもない。

二、すべての出来事は偶然

この世は神が創造されたのではなく、たまたま偶然に存在した。神が存在の根源でないから人間の物差しで人間の価値を決める。

三、人間は機械にすぎない

人間は、ただ環境により、文化により、親から受け継いだ遺

伝によって決定される。だから自分の行動に責任を持たない。

四、道徳的選択に責任を負わない

この世に生きて来たことについて、神に対し責任はない。今という時に、自分のやりたいことをやる。

五、この世がすべて

この世の向こう側に私たちの生はない。死こそ自分の存在の終焉。

六、自分で自分のやりくり

人間は生きる力を自分の中に見つける。自分の中にその源を見つけるしかない。

これら世俗主義はどんな文化も退廃させ、終わらせる。サタンは何ら生産的なものを持たず神が造られたものを歪めてしまう。

II 世俗主義に対するクリスチャンの生き方

一、人間には無限の価値がある

神が私たちをご自分の像にたどって造られた故に価値がある。聖書は、神が私たちを創造

し、生かし、導いておられると語る。だから人を殺してはならない。それは神が創造された神の像なる人を害することになるから。主イエスは人を侮ったり、軽蔑してはいけなと言われた。それはどのような人も神の像に造られた存在だから。互いに神によって造られたかけがえのない存在、即ちかたてもなかつたし、これからもないユニークな存在。その事を自分が認めることによって、この世を豊かにすることができ。

二、神に従う者に祝福を

世俗主義は自分を支配するものは何もないのだから、自分のやりたいうようにやっていたいのだと思ひ込んでいる。しかし、クリスチャンは神に従うならば神はその従順に対して驚くべき祝福を与え、本当の自由をその従順の中に与えてくださるというのを知っている。ガラテヤ書五章二二節の御霊の実、祝福の実は根がある。喜びの根は、従順ということである。従いなさい。そうすれば喜びが溢れます。主があなたにせよとおっしゃったことについて、その通りに従っていますか。神がしてはいけないと言われたことをやり

続けていないでしょうか。クリスチャンの持つ幸福の秘訣は、神に従っているということである。

三、力は内にあるクリストから溢れ出る

神は、私たちの力でクリスチャン生活をしないと言われたい。私たちの内にはクリストにこそ、栄光の望みがある(コロサイ書一・二七)。長い間神の内に秘められていた奥義が明らかにされました。それは、私たちの内におられるクリストです。クリストは私たちをご支配される。私たちとともに歩んでくださる。私たちを下からしっかりと支えてくださる。私たちの後をしっかりと守ってください。クリストが四方八方私たちを守り支えてくださるとは、何と不思議なことでありましょう。クリスチャン・ライフとは、自分でやりくりすることではなく、クリストをしてあなたの内に生かしめること、私たちが何かを神にしてあげることではなく、神が私たちの内に働きかけて御業をなさってくださいです。

(文責 西村内弘)

報(東京)大会聖化第11回

昨年10月21日(月)～22日(火)、東京における第11回聖化大会が一ツ橋にある日本教育会
ルで行われました。ケネス・C・キングホーン博士を主講師として恵みに満ちた集会和
別表の通り教財勢を報告し、下記に2回の聖会のメッセージの概要を記載します。

夢よりもすばらしい将来——天国 (聖会Ⅱ)

キングホーン博士

死後の世界があるのだろうか、あるとすればどのようなものか、ということば歴史を通じてすべての人の質問でした。神の啓示である聖書にその解答があります。天国についての六つのよくある質問を取り上げ、それに答えていきたいと思えます。

一、いつ主と共にいるために 天国に旅立つのか

それは死の時であると聖書は言っています。輪廻や煉獄の思想はありません。十字架上で主イエスは傍らの強盗に「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」と言われました。パウロは「肉体を離れて、主のみもとにいる」と言っています。最初の殉教者であるステパノは、その死の時に天を見つめ、「主よ、私の霊をお受けください。」と言って主のみもとに行きました。主イエスが死を打ち破って死者の中からよみがえられたので、私たちが死に対して勝利するのです。クリスチャンは死ぬと直ちに主のみもとに行くのです。

二、天国とはどこにあるのか 聖書は地理的な意味でどこかということについては語っていませんが、天国は場所であると言っています。天国とは、空想や哲学や概念ではなく、備えられた人々のために備えられている場所です。現実存在する場所なのです。

三、天国では報酬に程度の差 があるのか

神が聖徒に与えられる報酬については、聖書に何度も記されています。確かに天国に報酬の差はあるのです。主イエスも「あなたがたの宝は、天にたくわえなさい。」と言われました。この点でホーリネスのメッセージが重要になってくるのです。私たちは聖められてはじめて、神によつて造られたあるべき姿へと解放されるのです。ホーリネスのメッセージは、神が私たちに罪責と罪の力から解放してくださるというものです。もしクリスチャンとしての奉仕において私たちが縛り、妨げる罪から解放されているならば、天に多くの宝をたくわえることができま

す。ただきよめられているからといって報酬が与えられるわけではありませんが、きよめられた人々は存分に主に仕えることができるので、報いが与えられるのです。

四、天国とはいかなるところか

聖書は天国について語るときには二つの理由がありますが、それは人間のことで神の世界の現実を表現するに足りないからです。もう一つは栄化されていない人間の体は、天の啓示の前に立ちえないからです。ヨハネは黙示録において多くのものを見たにもかかわらず、ごくわずかのことが記していません。私たちは天国がどのようなところかについて完全に知ることはできないのですが、本当にすばらしいところが私たちが待つていることは確かです。

五、天国で何をすればいいか

天国はただ休むところではありませぬ。神が私たちに与えてくださったあらゆる可能性が実現されるところです。不正は糾

されます。また、すべての物は意味と目的をもって造られました。私たちがそのすべての造物を支配するものとされ、それらが神の栄光を崇めるようにするのです。

六、だれが天国に行くのか

第一に、天国に行きたいと願っている人が行きます。宗教や霊的なことに無関心な人は行けません。第二に、心にすてて天国を持っている人がいけるのです。私たちは聖い器として心にキリストに住んでいただきたいものです。第三に、キリストと正しい関係にある人が行けるのです。すべての罪と汚れから聖められ、私たちの心がキリストにふさわしいものであるように願います。

どうか、主が必要なすべてのみわざを私たちの内にしてくださるよう願います。そのために主が私たちに求めておられることをすべて果たさせて頂きましょう。

(文責・林 正弘)

札幌聖化大会委員会

宮城聖化交友会

山形聖化交友会

さる3月10日(月)、御茶の水OCCビルにおいて全国評議員会が開催され、全国各地の活動状況について報告がありました。その中から第1回目として札幌、宮城、山形の活動報告(但し、一部分のみ)を掲載いたします。

- 一九九六年度の活動
 - 一、委員会開催
 - 日時 一、二、三、四、五、六、九、十、十一月に開催。
 - 二、聖会の開催
 - 名称 「第八回札幌聖化大会」
 - 講師 野田秀師(聖会三回、セミナー一回)
 - 日時 一九九六年五月二十一日(火)ー二十二日(水)
 - 会場 札幌市「北海道クリスチャン・センター」
 - 出席者数
 - セミナー(四五名) 聖会I(一一二名)
 - 聖会II(一〇三名) 聖会III(一一三名)
 - 教職者親交会(二七名)
 - 三、学び会の開催
 - 日時 九月十日、十月八日、十一月十二日の三回。
 - 内容 「聖化について私が出会ったこの一冊」と題して各一名が発表し、質疑と懇談の時を持った。
 - 一九九七年度の活動予定
 - 一、委員会開催
 - 一、二、三、四、五、六、九、十、十一月の各月。
 - 二、聖会の開催
 - 名称 「第九回札幌聖化大会」
 - 講師 松木祐三師(日本ホーリネス教団陣馬高原教会牧師)
 - 日時 一九九七年五月二十日(火)ー二十一日(水)
 - 会場 札幌市「北海道クリスチャン・センター」
 - 集会 聖会(三回)、セミナー(一回)、他に教職者懇親会
 - 三、学び会の開催
 - 日時 三回(九、十、十一月)、昨年と同じ形式・内容。

- 一九九六年度活動報告
 - 一、聖化大会準備委員会
 - *日時 一九九六年八月十二日(月)
 - 二、「聖化大会」第八回仙台大会「決起祈禱会」
 - *第一回決起祈禱会
 - 日時 八月二十一日(水) 午前十一時
 - *第二回決起祈禱会
 - 日時 一九九六年八月二十二日(木)
 - 三、「聖化大会」第八回仙台大会
 - A、午後集会
 - *日時 九月六日(金) 午後二時
 - *講師 鈴木一郎師(日本イエス・キリスト教団・岡南教会牧師)
 - *会場 C・Bクリスチャンセンター
 - *証詞 大滝昭子師(イムマヌエル綜合伝道団・背蕨キリスト教会)
 - *聖書 エペソ二・一ー一〇
 - *主題 神の作品
 - *出席者 六十五名
 - B、夜の集会
 - *講師 鈴木一郎師(日本イエス・キリスト教団・岡南教会牧師)
 - *会場 C・Bクリスチャンセンター
 - *証詞 行川孝夫師(日本フリーメンジスト教団・南仙台教会)
 - *聖書 ビリビ三・一ー一十六
 - *主題 御霊による奉仕
 - *出席者 七十名
 - 四、宮城聖化交友会、交歓会
 - *日時 一九九六年九月六日(金) 午後五時
 - *会場 C・Bクリスチャンセンター
 - 一九九六年の都大会にも、宮城県のみならず福島県、山形県、秋田県、岩手県、青森県からも出席下さった。
 - 一九九七年度活動予定
 - 「聖化大会」第九回仙台大会
 - *日時 一九九七年九月二十三日(休・火)
 - *会場 C・Bクリスチャンセンター(予定)
 - *講師 松木祐三師(日本ホーリネス教団委員長・陣馬高原教会牧師) 交渉中

- 「山形聖化交友会第一回聖会」
 - (日時) 一九九六年九月二十三日(月) 午後三時三十分ー六時
 - (場所) 基督兄弟団 米沢教会
 - (講師) 松木祐三牧師(日本ホーリネス教団陣馬高原教会)
 - 聖書 ガラテヤ人への手紙五章二五ー二六節 説教題「御霊によって生きる」
 - (委員長挨拶) 加藤昇師(基督兄弟団 米沢教会)
 - (講師紹介) 釣健師(イムマヌエル綜合伝道団 山形教会)
 - (司会) 岡 栞也師(ウエスレアン・ホーリネス教会連合 日本基督教団 山形南部教会)
 - (奏楽) 平良階子師(基督兄弟団 山形教会)
 - (証し) 釣 俊江師(イムマヌエル綜合伝道団 山形教会)
 - 岡 好美師(ウエスレアン・ホーリネス教会連合 日本基督教団 山形南部教会)
 - (感謝祈禱) 加藤美知子師(基督兄弟団 米沢教会)
 - (出席人数) 八十六名
 - (参加教会) 八教会
 - 第二回山形聖化交友会
 - 日時 一九九七年九月二十三日(火)
 - 午前十時三〇分ー十六時〇〇分
 - 講師 村上宣道牧師(日本ホーリネス教団 坂戸教会)
 - 場所 基督兄弟団 米沢教会

総務レポート

聖化第23号をお届けします。諸事情のため発行が遅延しましたことをご詫びいたします。次号は速やかに発行いたしたく存じます。(保)